

CDP 水資源管理に関する調査で 最高評価の A リストに選定

アサヒグループホールディングス株式会社

アサヒグループホールディングス株式会社(本社 東京、社長 泉谷 直木)は、国際的な非営利団体 CDP () が実施した企業の水資源管理に関する調査において、水の持続可能な管理を推進している企業として、最高の評価となる「CDP ウォーター A リスト」に選定されました。今回の調査では、CDP が世界から回答を得た 405 企業中、8 企業、うち日本国内では 3 企業が A リストに選ばれました。

アサヒグループは、「水」をグループ商品の大切な原料の一つとして、工場の水源地における保全活動や、工場使用後の水をできるだけ使用前の水準で自然界に戻す努力をしています。また、生産工程における水の使用量や、工程で回収された水の有効利用による水の使用量削減にも取り組み、主要な原材料である農作物については、その調達過程における水のリスク分析と事業への経済的な影響評価を実施しています。今回の結果は、このような取り組みが評価されたものと考えています。



今後も、アサヒグループは、「環境ビジョン 2020」に基づき、自然の恵みを用いて事業活動を行う企業グループとしての社会的責任を果たし、多くのステークホルダーの期待に応えていくことができるよう、持続可能な社会の実現に向け貢献していきます。

CDP:(旧称:カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)は、822の機関投資家(合計資産運用額95兆ドル)を代表し、企業に、環境や天然資源に及ぼす影響を開示するよう、またその影響を軽減する対策を取るよう働きかけている国際的な非営利団体です。2015年、気候変動、水、森林等に関するCDP質問書を通して環境情報開示を行っている企業は全世界で5,500社にのぼり、これら世界最大の企業からの一次データと知見をビジネス、投資、政策の戦略的な意思決定の場に提供しています。